

プロフィール 渡辺 豊博 (わたなべ とよひろ)

1950年秋田県生まれ。静岡県立沼津東高等学校卒業。東京農工大学農学部農業生産工学科卒業。1973年、静岡県庁に入る。農業基盤整備事業の計画実施に携わり、1988年、地域総参加による源兵衛川親水公園事業の企画を担当。静岡県企画部企画総室技監・(財)静岡総合研究機構研究室長(派遣)、生活・文化部NPO推進室長、エネルギー対策室長、農地森林部農地計画課主幹。2007年9月に博士(農学)号を取得し、2008年4月より都留文科大学文学部社会学科環境・コミュニティ創造専攻教授。日本で最初の「富士山学」や市民活動論、地域協働論、地域環境計画、地域環境計画実習、地域環境計画ゼミなどを開講している。2016年4月より都留文科大学特任教授、株式会社ジャンボ渡辺まちコンサルティング代表取締役。環境カウンセラー(市民部門)。

農業土木学会「農業土木学会研鑽賞」「優秀賞」(共に2回受賞)、農業土木学会・学会賞「環境賞」・「著作賞」(清流の街がよみがえった)、農村計画学会30周年記念事業「農村計画優良事例顕彰」、国土交通省「第2回日本水大賞」、土木学会「2004年度デザイン賞最優秀賞」、2004年水辺のユニバーサルデザイン大賞「大賞」、朝日新聞社「第7回明日への環境賞」、あしたの日本を創る協会・平成18年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」内閣総理大臣賞、フジサンケイグループ「第18回地球環境大賞」環境地域貢献賞、毎日新聞社・朝鮮日報社「第16回日韓国際環境賞」、共同通信社「第1回地域再生大賞」大賞、生物多様性アクション大賞実行委員会「生物多様性アクション大賞」審査委員賞、土木学会「市民普請大賞」グランプリ、都市緑化機構「第26回緑の環境デザイン賞」国土交通大臣賞、日本水大賞実行委員会「第18回日本水大賞」環境大臣賞、公益財団法人都市緑化機構「第37回緑の都市賞」都市緑化機構会長賞、国土交通省ほか各省「第4回インフラメンテナンス大賞」優秀賞、国連ハビタット福岡本部など4団体「2020年アジア都市景観賞」、中部の未来創造大賞推進協議会「第21回中部の未来創造大賞」大賞、認定NPO法人プラチナ・ギルドの会「第8回プラチナ・ギルド・アワード」を受賞。日本ユネスコ協会連盟「第5回プロジェクト未来遺産」、ICID国際かんがい排水委員会「世界かんがい施設遺産」、WWC世界水会議「世界水遺産」に登録。

日本で最初の市民・NPO・行政・企業が、パートナーシップを組む、英国で始まったグラウンドワーク(環境改善活動)を故郷・三島市で始める。三島ゆうすい会、三島ホテルの会、NPO法人グラウンドワーク三島、(財)日本グラウンドワーク協会(県から2年間派遣)、富士山クラブ、富士山エコネット、富士山測候所を活用する会などの事務局長・専務理事を歴任。富士山には80回以上登山。

また、現在までに、静岡大学・早稲田大学・サイバー大学客員教授、静岡県立大学大学院・宇都宮大学・常葉大学・東海大学・立教大学・日本大学国際関係学部非常勤講師。富士河口湖観光協会環境調整アドバイザーなどを歴任。著書には「NPO実践講座」「環境共生の都市づくり」(ぎょうせい・共著)、「清流の街がよみがえった」(中央法規出版)、「英国発グラウンドワーク『新しい公共』を実現するために」(春風社・共著)、「富士山学への招待—NPOが富士山と地域を救う」「三島のジャンボさん ミスター・グラウンドワーク」(春風社・単著)「共助社会の戦士たち—NPO・社会的企業 成功への処方箋」(静岡新聞社・単著)「失敗しないNPO—グラウンドワーク三島の20年と英国に学ぶ—」「先生、NPOって儲かりますか?—若者たちが地元で賢く生きる方法—」(春風社・単著)、「富士山の光と影〜傷だらけの山・富士山を、日本人は救えるのか!?!〜」(清流出版・単著)などがある。

かつてNPO法人富士山クラブの事務局長も担い、富士山の世界遺産登録を目指して、先駆的な活動を仕掛けるとともに、世界の富士との連携等グローバルな視点に立ったNPO活動を先導している。さらに、全国各地のグラウンドワーク実践地域との広域的なネットワークづくりや実践者を養成するグラウンドワーク全国研修センターの企画運営等、グラウンドワーク三島の実践事例を機軸にしたパートナーシップによる新たな市民運動の手法を多様な市民活動の実践者として国内外に情報発信しNPOで創る革新的な地域協働の社会システムの構築を目指している。国内外の地下水保全・環境税等に詳しい。

海外との交流も活発に推進している。英国の英国グラウンドワーク連合体、オールダム・ロッチデールグラウンドワークトラストとパートナーシップ合意を締結。韓国の韓国ナショナル・トラストと環境技術交流、済州島の観光振興アドバイザー、アメリカのマウントレニエ国立公園とは環境バイオトイレ、ニュージーランド・トンガリロ国立公園とは世界遺産交流、ネパールとはカトマンズやヒマラヤにバイオトイレ設置計画など、台湾、カンボジアを含め、国際的な活動を展開している。(2021.4)